

平成30年度 自己評価書(最終報告)

H31. 2. 5. 高水高等学校・同付属中学校

1. 建学の精神 : 徳性の陶冶—教育による人格の錬成—

2. 校訓 : ○師弟親愛 ○堅実明朗 ○勤労実践

3. 前年度の成果と課題

【成果】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員は今年度も、各科・学年・分掌・教科、それぞれの課題を共有しながら、意欲的に改善に取り組んでいる。 2. 中高一貫の六年制普通科と中学部との連携がより強化され、各学年の目標がほぼ達成できた。 3. 普通科においてはチャレンジ目標である5分前行動が徹底できた。 4. 各教科の達成目標が定期教科会議を通して共有され、その達成に向けて意欲的に取り組んでいる。 5. 各分掌においても達成目標実現のために、分掌長がリーダーシップを発揮して教員が協働しながらよく取り組んだ。 6. 今年度始めての取り組みであった全教員による教員研修「主体的・対話的で深い学び」が実施できた。 7. 部活動における休養日の設定を各クラブの顧問が協力して実施できた。 8. 進路保障、特に3年生の進路実現に向けて教職員が協働して取り組めた。 9. 附属中の広報活動に現場教員が積極的に取り組んだことによって、入学者を増やすことができた。
【課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育の教員研修等は予定通りできたが、教員アンケートの結果からも教職員間の共通理解とその取り組みが不十分であった。 2. 系統的な教員研修制度の確立がまだ不十分であった。 3. 普通科における基礎学力の定着に取り組んできたが、まだ不十分であった。 4. 第2校舎のLAN整備が次年度に持ち越された。 5. 学習内容・方法・評価の一体化に大きな課題を残した。平成30年度生が新入試初年度生となることから、アクティブラーニングに対応した評価(ルーブリック評価等)や調査書作成時に必要となるポートフォリオ評価等について、早急な対策準備が必要である。 6. 整備したICT機器を活用し、授業のレベルアップを図るためにはそれを運用するアプリ・ソフトプログラムの整備が不可欠であり、この分野について研究し導入に向けた取り組みが求められている。 7. 教務・学校運営上に必要なソフトプログラムを更新し、ネット社会で通用する学校システムを構築する必要がある。 8. 入試改革を進める上で、現場の教員の共通理解と協力が不可欠である。来年度入試の改革に当たって、教職員間のより一層のコミュニケーションが求められる。

4. 平成30年度学校経営計画

- (1) 使命(ミッション): 地域社会における自校の使命
創立以来の人間教育を受け継ぎ、社会に貢献できる人物を養成する
- (2) 将来像(ビジョン): 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像
生徒の夢(志)や目標を実現させることができ、地域住民から期待され信頼されている学校
- (3) 経営目標(目指す学校像)
 - ① 生徒に教養を身に付けさせ、夢や目標を実現させる学校
 - ② 生徒に社会人として必要なルールとマナーを身に付けさせる学校
 - ③ 地域社会から愛され信頼される学校
- (4) 目指す生徒像
 - ① 自己の夢(志)や目標の実現を目指してひたむきに努力する生徒
 - ② 自ら考え判断し、協働して課題を見つけ解決ができる生徒
 - ③ 高水学園の一員としての誇りを持ち地域社会に貢献する生徒
- (5) 目指す教師像
 - ① 熱意と意欲に満ちた教師
 - ② いつも生徒に向かい合い共に考えられる教師
 - ③ 常に学び続ける教師
- (6) 本年度の重点目標
— 人間性の保障・学力の保障・進路保障 —
【生徒】
 - ① 特別活動や部活動を通じて豊かな心や社会性を育む
 - ② 一人ひとりの基礎・基本学力をワンランク向上させる
 - ③ 「1つ上の目標」に挑む進路指導の推進
 【教職員】
主体的・対話的な深い学びは、まずは職員室・事務室から
- (7) チャレンジ目標 (生徒)— 随より始めよ —
 - ① 挨拶 先に明るく元気に
 - ② 先を見据えた行動 5分前行動を心掛ける
 - ③ 1%を誰かのために ボランティア活動を推進

5. 基本行動方針2018(教職員の目標と心得)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 『わかる・できる・使える』授業の提供を追求しよう ～授業相互参観・研究授業・授業アンケートの活用～ 2. 教職員から積極的に生徒へ明るい元気な挨拶・声掛けをしよう 3. 教職員らしい自覚をもった服装、言葉遣いを心掛けよう 4. 生徒指導において見て見ぬふりをしないで、全員で一致協力しよう ～指導したら最後まで見届ける。従わない場合には学年主任・生徒指導部へ連絡する。生徒は教員を見て育つ』 ときには生徒の壁になろう～ 5. 担任は副担任・学年主任・科長と協力してクラス運営の充実を図ろう ～学年・学級便りの発行で保護者への情報発信～ 6. 家庭訪問の実施を心掛けよう 7. 教員自ら「無断」で「遅刻、早退、欠勤」をしないようにしよう ～必要な場合は、速やかに科長・教頭へ連絡する～ 8. ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動や部活動の活性化を図ろう 9. 学校や生徒の情報共有をお互いに心掛けよう 10. 勇気を持ってチャレンジしよう

6. 各学年の達成目標と目標達成の方策

学年	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
中1	1. 基本的な生活習慣の確立 中1:けじめ・思いやり 規律正しく、人に優しく 中2:自主性・積極性 自分の考え、意見を持つ。 中3:協力・協調 他人を理解し、自己を知る	1. ①ホームルーム活動と授業を通じてマナー(挨拶、身だしなみ、態度、言葉遣い、表情)指導を徹底する。 ②全教員が後片付け、掃除、整理整頓について同じ目線で指導できるようにする。 2. ①英語と数学は毎日宿題を課し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ②楽学テストでの習得範囲を意識させ、自学自習の習慣を身につけさせる。 ③生活実態調査等によって学習習慣状況を把握し個別指導に役立てる。 ④個人指導を重視する。 3. ①成績上位層に対する課題や補習を工夫する。 ②成績下位者に対する早朝・放課後の指導体制を築く。	・あいさつ・礼儀に対しては朝終礼を含めて徹底してきたが更なる意識づけが必要であると感じている。 ・学力の向上については科目間で格差が激しい。最終的にバランスの取れた学力を身に付けさせる。 ・長期休暇に補習を実施し、下位層の底上げを重点的に行った。	4
中2	2. 1日2時間自学自習 3. 学力推移総合偏差値52以上 学年受験生の5割	・挨拶等のマナーに関してはさらなる徹底が必要である。 ・英語と数学の宿題は徹底することができ、学力も向上した。楽学テストに関しては、生徒にその意義を理解させることが不十分であった。 ・長期休暇を利用して勉強会を実施した。 ・成績下位層の生徒に対して個別指導を継続して行っている。	4	
中3		・第2回学力推移調査において、総合偏差値52以上学年受験生の5割という目標は達成できた。 ・六年制課程進級へ向けて、学習面において取り組み姿勢が不十分な生徒が一部いるのが課題として残った。	3	
六1	1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を身につける。 2. 基礎学力の向上とともに得意科目をつくり、文理選択に備える。 3. 1日3時間自学自習 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生5割	1. 総合学習の時間を中心に楽学祭、修学旅行、合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1.楽学祭ではクラスでダンスを企画し、練習を創意工夫、栄ちゃん賞を獲得した。修学旅行では姉妹校のサザンクロス校との異文化交流を図れた。合同発表会ではグループごとにテーマを設定し、プレゼンテーションした。 2. 面談を通してそれぞれの将来を見据え、文理の選択をした。 3. 各種検定の上位級の取得、全統模試の受験などを促した。	3
六2	1. マネジメント能力及びチームワーク能力を身につける 2. 学部学科選択を意識し得意教科を2教科作る。 3. 1日4時間自学自習 センターレベルで平均点以上取れる。 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生4割	1. 楽学祭や合同発表会のリーダーを務めさせ、会の進行や運営の経験を通じて能力向上の機会を提供する。 2. オープンスクールへの参加を義務付け、定期的な個別指導をおこなう。 3. ウィンタースクールによる受験体制への移行を意識化させる。	1.楽学祭では各クラスで企画を考え、協力しながら成功することができた。合同発表会の資料ではそれぞれが工夫を凝らして作成した。 2. 面談の回数を増やし、受験に必要な科目や強化すべき科目を考えた。 3. ウィンタースクールで1日10時間も学習を経験。受験に向けて意識が向上した生徒が増えた。	4
六3	1. 第一志望大学合格を達成する。 2. 国公立二次や私立一般入試対策を徹底する。 3. 1日5時間自学自習 進研記述の総合偏差値50以上 学年受験生7割	1. 保護者説明会等を活用し、保護者の理解を得た上で、受験勉強を通じた能力向上を意識化させる。 2. 放課後補習や夏期講習会を実施する。 3. 学年のムードづくりを心がけ、進学講話会を通じ大きく意識変革する。	・生徒や保護者の希望をよく聞いたうえで、進路指導を進めることができた。 ・推薦入試を希望する生徒を対象に、手厚く面接指導や小論文対策をすることができた。その際、複数の教員でチームとして指導することもできた。 ・推薦入試で合格した生徒を最後まで学習に向かわせる働きかけは、今後も課題である。	4
	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	
普1	基本的な生活習慣の確立	5分前行動(時間を守る) ・8:15 13:05 着席指導 ・各クラスで月ごとの出席状況チェック ・あいさつ、身だしなみの指導	朝8:15の着席については生徒たちが時間を意識して行動しているが、13:05はまだまだである。(5時間目が体育の日はできたが、それ以外の日の着席が身につかなかったと考えられる。) 月ごとに欠席・遅刻・早退をクラスでまとめ、科長に報告し改善に努めたが実現できなかった。ただ、クラス間で課題を共有し行動できたことは意義があった。	4
普2	進路決定を早期に行い、実現に向けて努力する	①担任が個人面談を積極的に行い、生徒に情報を提供したり、アドバイスをする。 ②インターシップの準備や本番を通して、職業観などを養う。	総学・LHR等で個人面談の時間が十分にとれなかったが、進路に関しての個人的アドバイスは実施できた。インターシップを通して生徒が充実感を味わい、次の進路選択へのステップになった。	4
普3	進路実現 社会人として必要な知識を身に付ける	・授業規律の徹底 ・面談の回数を増やす ・模擬試験の有効活用	社会人としての規範意識を身につけさせるために外部講師等を招いて講演を実施したが、一部校外でのマナー違反等が見られ、不十分であった。進学・就職共にまだ若干進路未定者がおり、最後まで粘り強く指導を継続する。	3

7. 各教科の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
国語	<ul style="list-style-type: none"> 基本的知識、技能の習得。 主体的、能動的学習の視点からの授業改善。 新しい大学入試に対応できる国語力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、音読の徹底。 「主体的・対話的で深い学びの実現」に基づき、互見授業を行う。 授業・考査で論述問題を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の漢字を始め、副教材の漢字テキストを用いて小テストなどを行った。 新しい学習観に基づく授業の工夫は各教員でなされたが、授業参観や研究授業については不十分だった。 授業・考査はもちろん、週末課題などでも論述問題に取り組ませることができた。 	3
地 社	<ol style="list-style-type: none"> 科・学年・コースに応じた指導を心掛ける。 社会の「生きた授業」の構築 	<ol style="list-style-type: none"> 個々の生徒の現状について担任と密に連絡を取り、指導を進めていく。 習熟度を把握し、板書の工夫を図りつつ、質問しやすい授業展開を心掛ける。 中学においてはALによる授業形態をさらに発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任との早めの連携により、成績不振者の早期発見・改善に取り組むことができた。 科の特性に応じた授業を展開することができた。 次年度は主権者教育の担当者を教科内で決め、より積極的に推進していきたいと考えている。 	4
数 学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を目指す。 習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。 数学的な見方や考え方のよさを認識できることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を保つ。 担当者自身が日々研鑽を怠らず、わかる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部けじめのつかない生徒や意欲に欠ける生徒がいたが、概ね授業規律を保てた。 担当者自身が日々研鑽し、わかる授業の展開を心掛け、基礎・基本的な知識の習得に力を注ぐことができた。 	4
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 基本的知識、技能の習得。 主体的、能動的学習の視点からの授業改善。 新しい大学入試に対応できる力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の工夫、思考力問題作成の積極的取り組み。 生徒に達成感を味わわせるための授業実現に基づき、授業に関する意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板(物理、化学、生物の各実験室に完備された)の活用で、授業ならびオープンスクールの改善を図った。 化学基礎の内容で公開授業を開き、新大学入試を考慮した深い学びについて研修を行った。 	4
英 語	<ol style="list-style-type: none"> 自学を促し能動的に授業が取り組めるような授業工夫 学力差を配慮したわかりやすい授業の展開 大きな声が出る生徒を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 宿題を課し、家庭学習の習慣をつけさせ、授業を主体的に取り組め、楽しめる。 個々の生徒の学力に見合う基本テキスト等によって補完してゆく。 日々の指導の手を緩めない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入試も踏まえた授業の在り方を模索しながらも、現行の入試にも対応できる指導を合わせて行った。 GTECを初めて実施した。新入試での英検以外での民間の活用幅を広げた。 	4
保 健 体 育	<ul style="list-style-type: none"> けじめのある行動のとれる授業 安全管理の徹底 生涯活かせる内容の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後の挨拶など私集団行動の徹底 人員確認や施設設備の点検、整備 生涯スポーツの学習や健康への興味関心を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後の整列は年間通してしっかり指導できたが、全校集会などでは不十分であった。 概ね達成できた。 体育理論等の実施により昨年より成果が上がった。 	4
芸 術	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒と共に、成長する。」との自覚に基づき、自らが研鑽に心掛け、生徒の基本的な生活習慣をより高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目担当者自身が日々の研鑽を怠らない。 各科の重点目標(申し合わせ事項)に留意し、共通理解を深めると共に、歩調を保つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と共に成長を心得て、自己の専門分野の技能取得をより高める努力をした。 重点目標に留意し、歩調を保った。 	4
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 授業を通して社会に必要なマナーやルールを習得させる。 安全に配慮して活動する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習を多く取り入れ、実体験による知識と技術の習得を目指す。 食生活についてのマナーを学習内容に取り入れ、礼儀や言葉遣い等についてはその都度声かけ、指導する。 事故が起こることがないように適切に指導し、安全に配慮して活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの状態により実習計画を変更することもあったが、できる限り実習を取り入れた。 食事のマナーが身につくよう今後も学習内容に取り入れたい。 安全に活動することができるよう適切に指導できた。 	4
情 報	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルやマナーを身に付ける 情報リテラシーを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENUを活用して幅広い内容を指導する PCを積極的に活用し様々な能力を身に付けさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 実技を多く取り入れスキルの向上とリテラシーやモラル・マナーを習得させることができた。 	4

8. 各分掌等の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 総務部各業務の効率的なマネジメントを目指す。 PTA活動の活性化の手助けを円滑に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務の業務内容全般を把握し、円滑に業務が進むようにする。 業務の引き継ぎが出来るように、仕事を時系列で整理しておく。 PTA関係の業務は出来るだけ早めを開始し、余裕を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各業務に担当者を当て、責任を持って効率よく業務を遂行できた。 PTA 理事会、総会の召集から会の進行、資料作り等、滞りなくできた。 引き継ぎの手配も予定通り進んでいる。 	4
教務部	<ol style="list-style-type: none"> 本校入学試験の形を発展させる。 入試処理・成績処理・指導要録等について電子化を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1について、平成30年度においては付属中で専願入試を導入。平成31年度においては付属中専願入試・一般入試の更なる改良、また普通科入試における大幅な改革に、2にあげた成績処理を含めしっかり対応していく。 2については情報科等とうまく連携をとり、円滑に進めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1については、中高ともに新たな入試形態が一応無事に実施できたが、今回で大幅な受験生増には結びついておらず、更に検討・改善を進めていく必要がある。 2については、業者も決まり、具体的に来年度運用に向けて進行している。 	3
生徒部	<p>校訓をテーマとし、全教職員と全校生徒の共通生徒指導を目指す。</p> <p>『師弟親愛』・・・「信頼」される生徒指導 『堅実明朗』・・・「主体性」を育む生徒指導 『勤労実践』・・・「教師目線」の生徒指導</p>	<p>『師弟親愛』・・・あいさつを率先して出来る生徒(教職員自らが先に挨拶をする。教職員が教室での号令を徹底する。)</p> <p>『堅実明朗』・・・身だしなみ(通学カバンも含む)が整っている生徒(教職員が同じ基準で積極的に声をかける。教職員が場面合った適切な行動(はじめ)を教える。)</p> <p>『勤労実践』・・・ルールを守る生徒(教職員が手本となり規範意識を高める。教職員が率先垂範し清掃活動を行う。)</p>	<p>校訓を基に、全教職員が共通して生徒指導の実践を目指した。</p> <p>具体的には、 『師弟親愛』:「信頼」される生徒指導 『堅実明朗』:「主体性」を育む生徒指導 『勤労実践』:「率先垂範」の生徒指導として取り組んだ。</p> <p>特に「挨拶」と「清掃活動」は生徒指導部全員による早朝指導態勢で各学期に実践し、効果が上がった。今後は全教職員に広げていきたいと考えている。</p>	4
	いじめ防止	<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解決に学校全体で取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケートの実施。いじめは絶対に許さないという毅然とした指導を様々な場面で取り組む。いじめ対策委員会と教育相談委員会を定期的に実施し、生徒が抱える問題について教職員が協働して実践する事項を検討し、周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケートの実施。 いじめ防止対策委員会と教育相談委員会を定期的に実施し、生徒が抱える問題について教職員が協働して実践する事項を検討し、周知徹底した。 様々な問題はあったが、学年団を中心によく対処できた。 今後も気を緩めることなく、生徒の行動を観察し早期発見早期対応に努める。
進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> 教員の共通理解と組織化を促す教員会議の充実 保護者進路説明会の充実 生徒進路研修会の充実 本校独自のキャリア教育の進展 基本目標は昨年度の達成目標の継続と発展 偏差値に頼らない大学選びの研究 先生方に分掌分担の責任を自覚していただき、その責務をはたせるようにコミュニケーションをとることに留意する。 <p>平成30年度重点目標として5項目の設定(昨年度継承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※指定校推薦制度への取り組み ※模試の流れの改善について ※教員のスキルアップ ※新テストの研究 ※つなぐ役割の徹底 <p>昨年度の反省に基づき達成度を高める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ①高3進路指導連絡会②模試検討会 ②については基準模試成績返却の度に開催する。(個人成績の分析強化や問題研究) 2. 高3、高2、高1の保護者進路説明会を一学期中に実施する。(外部講師も依頼) 3. 進路研修会の回数と内容の再点検。 4. 総合学習やLHR・(道徳)を連動してキャリア教育の範疇に位置づけ、学年団で年間計画を立案する。中高6カ年教育については、環境教育と国際理解教育を柱とする発表を伴う課題研究を系統的組織的に実施していく。 5. 大学の教育力や就職力の研究を実施 <p>※の目標達成方策としては、11項目をあげて取り組んでいる。(11項目は年度初めの進路部指導方針で明示。)</p>	<p>今年度の目標やそれを実現する方策などについては、概ね達成できた。</p> <p>新入試を踏まえた進路指導の在り方を模索し、それに対応した準備もしつつ、現行入試への対応も怠りなく行ってきた。</p> <p>1年後に迫った大学入試共通テストへの更なる研究や対応、今年度からのポートフォリオの電子化の構築など、急ぐ課題もあるが分掌の責任を果たしていきたい。</p> <p>就職指導については、分掌担当者と学年の協力のもと適切に実施できた。学校推薦での就職希望者は、全員内定した。</p>	3
保健部	<p>生徒の健康・安全を最優先に考え保健指導や怪我の防止に努める。</p>	<p>健康診断・健康調査を基に健康指導をするとともに怪我や緊急時の対応を迅速かつ的確に行う。</p>	<p>今年度、4回救急車を要請。授業中や高校入試では受験生の中で体調を崩す生徒がいたが、先生方の迅速な対応で緊急時の処置が出来た。</p>	4
特別教育支援相談	<ol style="list-style-type: none"> 教育相談(カウンセリング)業務の継続・充実 特別支援教育の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 教育相談においては、専任カウンセラーのカウンセリングを中心に行う。 特別支援委員会の開催 個別の教育支援計画の作成 	<p>専任カウンセラーの東條先生を中心に、担任・コーディネーター・関係医療機関等が連携をとりながら、案件に対して丁寧に対応できた。</p>	3

広報室	受験生と入学生の増加	①広報活動の工夫。 ②HPの更新で、最新かつ正確な情報を伝えるよう心掛ける。	中学校入学者は現状維持。広報活動の工夫はもとより、本校の中高一貫教育の抜本的な改革にも早急に着手していきたい。	2
事務室	1. 諸会計事務の迅速化 2. 誠意ある来校者への対応 3. 校内安全管理の徹底	1. 校納金の滞納者を減少させるために就学支援金や減免制度を周知徹底。 2. 電話の対応を丁寧に。来校者には笑顔で。 3. 事務職員と教員との共通理解。	1. 該当者には周知徹底を図った。 2. 丁寧に対応している。 3. 担任と緊密に連絡している。	4

9. 学校運営の達成目標と目標達成の方策

達成目標		目標達成の方策	年度末 達成状況	達成度	
特別活動	1. 学校行事を精選するとともに、行事を充実させる。 2. ホームルーム活動を充実させる。 3. 部活動における休養日の設定と活動時間の見直しを図る。	1. 各科・学年・生徒会等との連携を密に図り、協力体制を構築する。 2. 科長・学年主任・担任団との連携と協力体制を強化する。 3. 顧問会議等を利用して密に連絡を図り実施する。	1. 学校行事の精選については次年度にも継続する。 2. 科と学年団を中心に連携が強化されてきた。 3. 概ね実施できた。	3	
学校運営	1. 大学入学者選抜制度改革を見据えつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進していく。 2. 普通科の入試会改革を着実に実行する。	1. 教務・進路と各科が密に連携しながら教員研修を実施する。 2. 本校の特色・魅力ある活動を地域に積極的に情報発信するなど「生徒募集活動」を強化する。	1. 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めている。 2. 今年度普通科の入試改革を実行できた。地域への情報発信については、さらなる改善に努めたい。	4	
業務改善	学校の組織等	1. 科・学年・分掌連携強化を深める。情報交換を進め、各分掌の業務を理解するとともに、分業化に向けて協力体制を構築する。	1. 日常連絡を密にし、定期的な会議等で積極的な意思疎通を図り、協力して物事に当たる。	科・学年・分掌と連携しながら、分業化に向けて協力体制を構築している。	3
	日常的な業務	1. ICTの活用による業務の効率化を図る。	1. 校務支援ソフトの導入を推進する。	第2校舎自習室、特別教室等の電子黒板を設置できた。また、次年度からの校務支援システムに向けて業者の選定と内容の優先順位付けを行っている。	4
	勤務状況	1. 勤務時間適正化と時間外業務時間の縮減推進	1. 長期休業中や考査期間中の行事や会議に配慮する。 2. 日常業務効率化を推進し、残業時間縮減を意識し、実行する。	1. 概ね配慮できた。 2. 分掌等と連携しながら業務改善、効率化に取り組んでいる。	4

10. 本年度の取り組みの成果と課題

【成果】	1. 今年度第2期ICT整備計画に着手でき、ICT化に向けた校舎、教室等の整備が構築できた。 2. ICTによる授業改善に、新たに個人用タブレットを活用した新たな取り組みを来年度から実施できる目途がついた。 3. 校務支援システム導入に向けての計画が実現可能な段階に達することができた。 4. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が研究授業をてこに計画的に進められた。 4. 普通科入試の改革に着手し、今年度一定の成果を得た。 5. 新しい学校教育の課題（ICT、評価、新入試への対応等）に向け、分掌業務が適正化が進んだ。
【課題】	1. 新学習指導要領の実施に向けた学習内容・方法・評価の見直しについて、その取り組みが急がれる。 2. 組織的な研修制度が構築できなかった。 3. タブレットの活用による全教職員のペーパーレス化が次年度以降に持ち越された。 4. 生徒の自己肯定感の醸成が図られていない。 5. 生徒の基礎学力の向上と家庭学習の定着が不十分であった。 6. 収支のアンバランスが生じてきたため、早急に生徒会予算の見直しを行わねばならない。